

剽窃定義確認書

年 月 日

早稲田大学政治学研究科長 殿

早稲田大学 大学院政治学研究科 年

本人氏名 _____ (印)

年 月 日生

私は、研究科要項および裏面に記載のある剽窃に関する定義を理解し、修士論文提出において、剽窃または剽窃と疑われる行為を一切行わないことを誓約いたします。なお、万が一、当該行為を行なった場合には、厳重な処分（無期停学・当該学期成績無効・修士論文不合格等）を受けること、学位取得後であっても学位取消となることを十分に認識した上で、論文執筆を進めていくことを誓約いたします。

剽窃・盗用 (Plagiarism) について

剽窃・盗用は不正行為

研究を志す者が、絶対に行ってはならない行為として、剽窃・盗用があります。剽窃・盗用（英語ではPlagiarism）とは、「他人の作成した著作物の内容やその基になっているアイデアなどを、脚注をつけるなどの必要な手続きを踏まずに借用し、あたかも自分のものであるように書いたり報告したりすること」です。これは、カンニングと同様の不正行為です。絶対に行ってはなりません。大学院では、学部時代とは異なり、多くのレポートの執筆が要求されます。また、課程を修了し学位を取得するためには、修士論文や博士論文を執筆しなければなりません。さらには、学会誌などへの投稿や学会報告を行う機会が与えられます。これらの内容は、基本的に自分のアイデアと調査分析に基づき、自分のことばで表されたものでなければなりません。

もちろん、レポートや論文を書くときには、他の研究者による業績の内容を踏まえ、それを利用したり参考にしたことは当然のことです。しかし、その場合にも、他者の分析やアイデアを借用した部分については、一定の形式とルールにのっとり注などを打つことによって、誰のどの著作から借用したのかを、明示する必要があります。

それをせずに、あたかも自分の分析やアイデアであるかのように記述した場合には、剽窃・盗用となり、それが発覚した場合には、レポートや修士論文・博士論文の評点はゼロになることはもちろんのこと、それ以上の罰則を受ける場合があります。本研究科も、剽窃・盗用については、研究科に設置されている倫理委員会での議を経て、厳正に対処します。

剽窃・盗用をすれば、将来にわたっての研究者としての生命を失う場合もあります。アメリカの多くの大学院では、剽窃・盗用があった場合には、退学となり、他の大学の大学院に移籍することも不可能になるという厳しい処分が科されるほどです。

近年インターネットが普及し、ウェブサイトには様々な論文が掲載されていることから、その内容を安易にコピー・アンド・ペーストする例が増えています。コピー・アンド・ペーストまでとはいかなくとも、文章の一部分を言い換えたりして、そのまま自分の論文やレポートに借用して注も打たない例も、相当に増えています。レポートや論文の提出の期限が迫っているのに、何もまだ書けていない、などという場合には、このようなことをやってしまう誘惑に駆られることもあるでしょう。しかし、その誘惑に負けることで、成績がゼロになったり、処分を受けたり、最悪の場合には、研究者としての一生を棒に振ることになるのです。そのようなことにならないためにも、絶対に剽窃・盗用は行っはけません。

剽窃・盗用を防ぐには

意図的に他者の分析・アイデア・文章を剽窃することは決してあってはならない不正行為ですが、十分に気をつけないと、その意図がないにもかかわらず、剽窃・盗用となってしまう場合があります。このようなことのないようにするには、最低限でも以下のすべての点について、常に留意する習慣をつけることが重要です。

- ①自分のアイデアと他者のアイデアを常に区別して、報告や記述を行う習慣をつける。
 - ②他者の分析・アイデア・文章を利用した場合には、必ず「誰の」「どの文献や報告から」「どの部分を」借用したのかを、一定の書式に従って、注に明示する。
 - ③他者の分析・アイデア・文章をたとえ書き換えて利用した場合でも、②のように注を付ける。
 - ④レポート、論文、クラスでの報告の末尾には、利用した文献のリストを必ずつける。
 - ⑤著作や論文を読み、その内容をノートやメモしたとき、何ページから抜き書きまたは要約したのかを、常に記入しておく。
- 意図せずに、剽窃や盗用を行うという事態を回避し、誠実な研究を行うためにも、以上のことに十分に留意するようにしてください。

参考になるサイト

以下に、剽窃・盗用とはどのようなものか、どうすれば防げるのかについての情報があるウェブサイトのURLを記しておきます。英語のページが多いですが、とても参考になりますので、必ず熟読するようにしてください。

- ① 早稲田大学政治経済学部の剽窃についての警告ページ。

<http://www.waseda.jp/seikei/seikei/student/pdf/20051117touyouhyouseitu.pdf>

- ② University College Londonの剽窃・盗用に関するサイト。どんなことをすれば、剽窃になるかなどについての詳細な情報があります。

<http://www.ucl.ac.uk/current-students/guidelines/plagiarism>

- ③ Northwestern大学（アメリカ）のサイト。どうすれば剽窃をさけることができるかについての詳細な情報が掲載されています。

<http://www.northwestern.edu/provost/students/integrity/plagiarism.html>

これらのほかに、論文の書き方などについての多くの著作に、剽窃の防ぎ方などについての情報が記載されていますから、自分で調べて万全の備えをしておくようにしましょう。